



ドクターからのメッセージ

ご存じですか？ ～肝臓、胆道、膵臓の病気の初期症状

外科 高橋 進一郎（たかはししんいちろう）

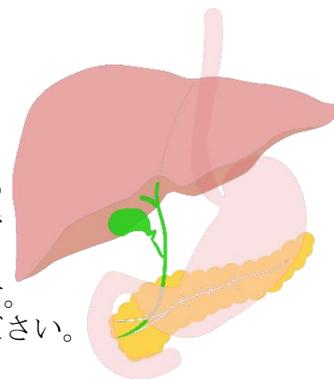
4月より入職した外科の高橋です。国立がん研究センター、東海大学で25年間、肝胆膵疾患の手術や化学療法などを行ってきました。肝胆膵のがんは難治がんと呼ばれていますが、早期に見つければ治すことも可能ですので、積極的に治療を行っています。また、高齢化とともに胆石症、総胆管結石なども増えており、こちらの治療にも力を入れています。

今回は、早期発見・早期治療に結び付く肝臓、胆道、膵臓の病気の初期症状についてお話しをさせていただきます。

■肝臓の病気の初期症状とは？

代表的な病気：肝炎、脂肪肝、肝硬変、腫瘍（肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん）など。

初期症状：肝臓は沈黙の臓器のため、初期症状は体のだるさ、食欲不振、微熱、上腹部の不快感のみの場合が多いのです。黄疸や腹水などの症状が出た時にはかなり重症です。以前はウィルス性肝炎が多かったのですが、最近は脂肪肝から重い病気になる方も少なくありません。日本肝臓学会はALTが30U/Lを超える場合医療機関の受診を薦めています。症状が気になる場合や検査値が基準を超える場合はお気軽に受診してください。



■膵臓の病気の初期症状とは？

代表的な病気：急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、膵のう胞など。

初期症状：急性膵炎はアルコールの多量摂取や胆石の落石などで起きることが多く、上腹部の激痛、吐き気・嘔吐、発熱など強い症状が出ます。長年のアルコール摂取により起きる慢性膵炎の場合、腹痛だけでなく下痢や体重減少なども伴います。膵癌は上腹部・背中への重苦しさや不快感、食欲低下など、見過ごしやすい初期症状です。糖尿病の急な悪化や、黄疸で見つかる場合もあります。症状が気になる場合は医療機関を受診してください。

■胆道の病気の初期症状とは？

代表的な病気：胆石症（胆嚢炎）、総胆管結石（胆管炎）、胆管がん、胆嚢がん など

初期症状：胆嚢炎の場合、食後に右の肋骨の下あたりに痛みを感じます。炎症が強くなると嘔気や発熱がでます。胆管炎は38度以上の発熱、悪寒、右上腹部痛、場合により黄疸を伴います。胆管炎は重症感染症ですので早急な治療が必要になります。胆管癌は胆汁の通り道の胆管にできるがんで、初期症状は黄疸や右上腹部痛です。一方で胆嚢癌の初期症状は消化不良や不快感のみの場合が多く早期発見が難しい病気です。

■最後に

症状がある場合や、肝臓、胆道、膵臓の病気についてご心配な場合はいつでもご相談ください。また定期的な健康診断、人間ドックの受診もお勧めします。

◇第2回徳洲会カップ(医療従事者向けサーフィン大会)を開催します◇

「第2回徳洲会カップ in 榛原」を6月8日(日)に開催します。会場は牧之原市の大型ウェーブプール「静波サーフスタジアム PerfectSwell®」です。当日、ステージイベント、地元の軽トラ市、キッチンカーなども予定しています。

徳洲会体操クラブの選手たちが参加します!! 皆様のご来場をお待ちしております。



〈おねがい〉 受診の際には、必ず『おくすり手帳』をご持参ください